

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒606-8202
京都市左京区田中大堰町49
075-701-3210

中国支部の現況について

中国支部長 池内 浩一 (昭28年卒)



私は一昨年、前任の松谷健一郎先輩（昭和16年卒）からバトンタッチを受けて、中国支部長に就任しましたので、始めに中国支部の概況を紹介します。

洛友会中国支部は、本部創立に遅れること約一年の昭和28年12月1日に発足しました。中国地方では、洛友会発足前から故鈴木貫一氏（明治42年卒元中国配電社長）を中心に折々に会合を持ち、同窓会活動を行っていましたが、これが洛友会中国支部に発展した形となりました。

都合などもあって、翌年の昭和29年4月に、本部から故鳥養会長、故山村幹事、教室から故松田先生をお迎えし、安芸の名勝厳島を対岸に見渡す中国電力宮島荘で行われました。

このとき、支部役員としては、前述の鈴木貫一氏を顧問としてお迎えし、支部長には真田安夫氏（昭和2年卒）が選任されました。また、参会された会員は、遠く岡山、宇部や山陰の松江から出席された方もあり、23名にも及びました。

発足当時の支部会員数は、80名強でしたが、その後着実に増え続け、特に昭和36年度からは電気講習所卒業生も加わることで、会員は一挙に100名を超えることとなりました。その後、昭和40年代以降も毎年1〜2名の新卒者が加わり、支部会員数は、一時期130名を越えて推移していましたが、最

近では新卒者の加入が無い年もあり、平成14年5月現在では121名となっています。

中国支部では、毎年5月下旬に支部総会を開催していますが、総会への参加者は毎回30名を上回っており、支部会員の約3割の方にご出席いただき、洛友会本部および教室からおいでいただく先生方を交え盛況に開催しています。また、支部の行事としては、支部ゴルフコンペを開催し、毎回20代から70代まで幅広い参加者が秋の一日を満喫しています。又、最近では当地方の企業見学会を開催し、知見を広めるよう努めています。土曜日開催のため見学先選定に苦労しています。できるだけ多くの方に参加していただけるよう活気あるベンチャー企業を選ぶなど工夫を凝らしています。

一方、本部発行の洛友会会員名簿によりまずと京都大学電気系教室卒業生即ち洛友会メンバーとなる方は、大正以前はさておくとし、昭和に入ってから以降30年間は電気工学教室卒業生のみであり、50名前後で推移してきました。しかし20年代末電子工学科が創設され昭和32年からは2つの教室から卒業生が輩出され30年代末には100名近くに増加しています。更に40年代に入ると電気工学第2学科が創設されて加わり、卒業生数は最近では毎年140名前後と昭和前半の約25倍に達しています。

翻って、中国支部の会員数は前述のように、昭和40年頃約130名に増加し、以後略横這いが続いていたのですが、最近やや減少し120名程度です。従って最近では中国地方で仕事に従事される洛友会会員が相対的に減少していると言えます。

この中国支部洛友会会員のうち、卒業後（含む大学院卒）10年以内の若い方の人数が最近減少しているのが大変気に懸かっています。昭和50年代半ばまで30名程度でしたが、現在は略半減しており、就業先もかつては15〜6社と幅広い業種にわたっていたものが、近時は数社に限定される傾向にあります。

中国地方は、かつて昭和40年代を中心に瀬戸内海沿岸部に重厚長大の大型工場群が続々と建設され、高度成長の花形地方でありました。しかるに平成に入ってからバブルの崩壊やITに代表される高度情報化時代を迎え、その変化に対応できるような産業の構造転換が遅れている面があります。これが中国地方の洛友会会員の動向にも現れていると思います。

我が国の現下の経済情勢は長期低迷傾向が依然として続いており、この原稿を書いている時点でこの政府関係の景気判断は、産業、経済の一部に下げ止まりの傾向がうかがえるが、先行きは依然不透明にて予断を許さないと報道されています。処理が進まぬ不良債権、高コスト体質、高失業率、国や自治体の財政危機（国債などの総計がGDP150%近くまで増大）など、悪い指標がよく報道され議論されますが、一番懸念されるのは産業の海外流出（空洞化）です。中国地方の流出傾向も全国と同様であり、中小企業においても進行しています。

これが全ての原因ではありませんが、全国的に設備投資が振るはず、消費の低迷を招いています。かつて発展途上国と言われた国々も技術力、工業力を急速に整備向上させてきた現在、我が国は先端技術に活路を見出さざるをえませんが製造工程が無くなって果たして技術開発、研究が十分行えるのか大変危惧されます。

このように景気低迷が続くなかで、当中国地方でみますと企業により元気に差が生じて来ましたが、元気のよいところは、企業の規模や業種には殆ど関係なく、かつて10〜30年も前に今言うベンチャー企業として新規創業、スタートした所が多いようです。創業精神といえますか、経営者が困難に挑戦してゆくマインドが現在の難関を克服してきており、更にその精神が全社員に浸透し、企業全体として活性化しているためであります。

我が国の技術、産業を先端性に富む、競争力のあるものに育てるには、大企業での研究開発だけで

はなく、規模は小さくとも特異性のある企業、産業を伸ばしてゆかねばなりません。最近では交通、通信手段の高速性、利便性がインターネットに代表されるように、急速に発達し開発拠点も場所を選ぶ必要が少なくなってきました。この観点からも優秀な洛友会メンバーが、もつと全国に分散して実力を発揮して戴きたいと思えます。

「鶏口となるも牛後となるなかれ」と言われますが、これは企業に於いても同様であります。過去の栄光や実績にとらわれず、自由な発想でオンリーワン企業、技術を目指すには小さい企業の方が適しているとも言えます。

地方においてもそのような素地を醸成すべきであります。自ら努力すべきは勿論ですが、最近では産官学協同により、周知を集め、より広汎にかつスピーディーに技術開発を進めようとの機運が急速に強まってきました。これは産学共にニーズが増大してきた為です。企業も大学も学生も皆が、このような趨勢をより一層注視し理解を深めてゆきたいものです。

いづれにしても、中国地方の洛友会会員、特に若い会員がもつと増加してゆく時代、環境が切望され、そのように努力してゆく必要性を痛感いたします。



大学の動向

部局長の異動

学術情報メディアセンター長

学術情報メディアセンターの新設に伴い、平成14年4月1日付けで、松山隆司情報学研究所教授(昭49年卒)が任命されました。任期は平成16年3月31日まで。

宙空電波科学センター長

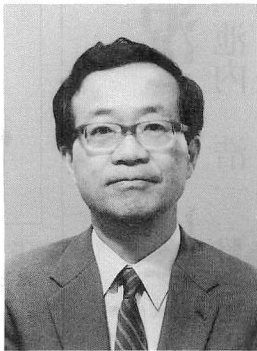
前任者の任期満了に伴い、後任として平成14年4月1日付けで、松本 紘(宙空電波科学研究所センター教授(昭40年卒)が任命されました。任期は平成16年3月31日まで。

教室だより

(京大広報567号より)

退官に当たって

宅間 董(推薦会員)



平成7年3月に(財団法人)電力中央研究所より京都大学の工学研究科に参り、本年3月末まで電

気工学専攻電力工学講座電力発生伝送工学分野という長い名前の研究室を担当しました。大学の博士課程を出たあと東京大学工学部の専任講師として1年間、平成元年から5年まで九州大学総合理工学研究所の客員教授として4年間勤めましたので、3回目の大学生活でした。京都大学出身でない私が研究室を持つて、長くもあり短くもある7年間と1ヶ月を大過なく全うできましたのは、電気系教室の先生や職員の方々、洛友会の先輩、卒業生、ならびに私の研究室の職員、卒業生、学生の皆さんのおかげです。厚くお礼申し上げます。今回一番ホッとているのは高電圧、高気圧、高真空といった危険の満ちた実験室で、たいした学生の事故が起こらなくて済んだことです。学外の事故は別にして、7年間の学生の事故は、中庭から自転車とどび出し鎖に引っかかって転倒し前歯を折った1件(賠償責任保険適用第1号)と夜間の実験中にガスボンベの口金を開く際スパナが滑って顔にぶつけた1件だけで済みました。

在職中の研究は、電力システム分野の研究(垣本助教が担当)は別にして、高電圧放電、絶縁、数値的な電磁界解析が中心で、応用は電力分野の環境問題、絶縁設計、高電圧計測などでした。具体

的には、真空放電、高気圧放電の実験とシミュレーション、電界計算法の高性能化と応用、固体表面の帯電測定法、SF₆(六フッ化硫黄)ガスの地球温暖化効果に関連して代替ガスの検討(C₂F₄、C₃F₈を含む混合ガスの提案)、高分子膜を用いるガス回収法、などです。しかし以下では、研究内容よりも研究所から大学に移った人間としての体験と印象を少し述べることにします。

教育に関しては、最近の学生の学力低下をいたるところで耳にします。教育履歴の短い私もしばしばこのことを感じました。たとえば、分担して受け持っていた電気電子材料概論の最初の試験に「固体、液体、気体の代表的な絶縁材料の例を挙げよ」という問題を出したところ、さまざまな思いつきの材料名が出現しました。液体絶縁材料では141の答案中に水と書いたのが30、水銀と書いたのが4例あり唾然としました。これは2回生ですが、4回生でもわが国の交流送電の周波数が50あるいは60Hzであることを知らない学生がかなりおり、なかにはkHzの値を挙げるものもあります。期末試験ではときには講義した内容の1/4くらいしか出ていない学生をパスさせることになりました。厳しくすると不合格があまりにも多くなるから

です。もちろんこのような状況は京都大学だけの問題ではなく、集中講義を行った広島大学などでも似た経験をしました。極端なことを言うと、無駄な努力と無駄な時間を費やす壮大なプログラムが日本の大学全体で進行しているような気がします。恐らくは授業の分量を1/3くらいに減らし中間段階で厳密な試験を行って習得したとみなされる学生はそこで授業を終わりにし、不合格の学生は何回も繰り返して習得するまで勉強させるのが効果的な方法かと思えます。しかし残念ながら、私の講義はこのような「革新的な」内容には至らず、通常の授業と時々的小試験くらいで終わりました。

研究に関しては、大学の研究費が少なくという外部の一般的評価はかならずしも当たっていません。大きな設備や新しい機器の充足度(これさえも研究分野によってはきわめて充実しています)は別にして、研究作業の予算はそれほど乏しくありません。たとえば昔は「大学の研究者は出張もままならない」と言われていましたが、現在国外出張は会社や研究所と比べて大学からがもつとも容易です。これは委任経理金や各種の研究補助金が実質的にはほとんど何の制限もなく使えるおかげです。

その結果海外の国際会議の参加者数は主催国について日本が2番目に多く、ときには主催国以上となる例もあり、その大半は大学からの参加という状況になっています。

研究所と比べた研究面の問題は研究費より時間にあります。つまり忙しいということですね。一つは

授業、セミナー、学生の研究指導、試験に伴う業務など研究所にない仕事が必要なことにあります。こ

の中でも学部から大学院、留学生、社会人などを対象としたさまざま

な入学試験は研究と教育の大きな障害要因だと思います。いさ

かの意義が附加できればそれに費やす労力と時間はほとんど考慮さ

れないために、試験の種類がどんどん増えかつ複雑になっています。

す。たとえば、日本の限られたパイを対象とする後期入学試験などは、出来るだけ簡略化したスタイル

でのみ意味があると思います。

このような大学生活の多忙は、もちろん研究、教育、その他に影響が及びます。在職中の私の経験

でも、たった2頁の中に10ヶ所近くも間違った内容が書かれている

大学講座を目にし、電気工学ハンドブックの執筆者で原稿をいつま

でも提出しないばかりか何回もの問い合わせのメールに返信も奇越

さない人がいました。どちらも旧帝大の教授です。これらは極端な

例でモラルの問題でもありますが、貧すれば鈍するで、時間が無いのが原因であるのは間違いありません。不満足な仕事をしないためには、内部外部の仕事出来るだけ避けるなどの自衛策をとる必要があると思います。

京都大学ならびに電気系教室は、これから桂移転、独立行政法人化、研究評価など大きな変革に

直面します。変化は活性化の推進力として一般的には歓迎すべきこ

とですが、正直言って私はこれらの変化に遭遇しないことを幸いに

感じています。電気系教室の皆さんが出来るだけ良い方向へのイン

センティブとされることを心から願っています。

清野 武先生を偲んで

池田 克夫 (昭35年卒)

本学名誉教授清野武先生は、平成14年4月2日逝去されました。享年87歳でした。先生のご逝去を悼み、謹んで追悼の辞を記させていただきます。



清野 武先生は、大正3年11月東京市においてお生まれになり、旧制東京高校を経て、昭和12年3月京都帝国大学工学部電気工学科を卒業、同年8月まで大学院に在籍の後、工学部講師、助教授を経て、昭和22年4月には32歳の若さ

で京都帝国大学教授に任ぜられ、昭和53年4月京都大学停年退官、同月京都大学名誉教授になられました。この間、昭和21年10月工学

博士の学位を授与され、昭和41年2月から42年12月まで文部省大学

学術局科学官に任命され、昭和49年4月から53年3月まで京都大学

大型計算機センター長を併任されました。その後、昭和53年4月大

阪電気通信大学教授として後進の育成に当たり、昭和57年4月から

60年3月まで同大学図書館長を併任し大学行政にも寄与されました。

先生の40有余年間における研究は多方面にわたりますが、一貫して、実際の技術の理論的基礎づけ

を志向したもので、応用地球物理学の技術に始まり、電磁気学理論

への展開、それに伴う数値解析に発展し、さらに電子計算機とその

応用に及んでいます。

最初所属された鉱山学教室においては、電気探鉱法の電磁気学的

解析によりさまざまな実験的事実の解明に成功されましたが、その

過程で林 桂一博士「高等関数表」の誤植を指摘されたことは有名で

す。図書室の本に「この数表は間違っている。清野」とあったそうです。

先生は、昭和32年にMITに留学され、当時ようやく実用化され始めた電子計算機の将来性並びに研

究、教育活動に対する計算機センタールの重要性を見抜かれ、帰国後、

学内計算センター並びに大型計算機センターの設置に関して多大な

寄与をされ、その運営と発展に尽くされました。工学部1号館の2

階に設置されたKDC-1の計算機準備室には、入り口に向けてどんと

大きな机が置かれ、いつも清野先生が覗みを利かせて座っておられたのを想い出します。卒業したて

の私たちは、恐れ多くて、威儀を正してドアを開けたものでした。

昭和45年4月には、わが国の国立大学としては最初の情報工学科

の設置に際して中心的な役割を果たされ、従来の電子工学、通信工

学の枠を越えた新しい学問分野としての情報工学の研究、教育を担

うべき学科を組織するためにも多大の努力を払われました。そしてこ

の新しい学科において多数の優れた人材を育成してこられました。

今日これらの人材は、社会の広い分野で中核的な位置を占め、その

働きは高く評価されています。京都大学の情報工学科は、一つの卓越したお手本として注目され、わ

が国の情報工学、情報科学の大学教育に大きな影響を与えて参りま

した。

情報工学科の建物として工学部6号館が昭和47年の夏に建設されるまで先生の教授室は電気系の旧

図書館の2階にありました。荘重な感じの大きな部屋で、油引きの木の床が少し石油くさい部屋でし

たが、その東南の角に大きな机が置かれていました。当時の先生は

相当なヘビースモーカーでした。昭和35年卒業生の記念アルバムに

は若かりし日の先生のお姿が納められていますが、指先には煙草の

灰が長くなって今にも落ちそうになっていたのが記憶にあります。

教授室の鴨居にはピースの空き缶がブラーツと並べられていたのを

想い出します。その並べ方は、先生の几帳面な性格そのままに、実

に整然と並べられていました。後年、健康を害され煙草を止められ

ましたが、決然としてお止めになったのも、先生のけじめと意志の

強さを示していたように拝察しております。

先生は、大学外においても、工業技術院工業技術協議会委員、電気学会副会長、情報処理学会会長

など数多くの要職を歴任され、広く学術振興のために大きな功績を残されました。

先生は、半世紀も前に電子計算機の将来を予見され、優れた理論

的才能と不屈のご努力により、電気工学、情報工学を中心として多

方面にわたる研究、教育に多大の

ご業績を挙げられるとともに、大
学行政及び工業界の発展にも大い
に貢献されたのであります。昭和
62年には、先生のこれまでの数々
の顕著なご功績に対して、勲二等
瑞宝章を受章されました。

先生は、高等学校時代から画を
お描きになつておられたと伺つて
おりますが、昭和32年には池田長
三郎画伯に師事され再び絵筆を持
たれるようになった。その後、留學で一時中断されておられ
ましたが、昭和47年からは独學で
水墨による植物の写生を始めら
れ、蒼花の雅号で草木と花を題材
とする多数の画を画いてこられた
ことでも有名です。京都大學退官
の翌年に第1回の作品展を開催さ
れ、爾來、秋の作品展23回、春の
作品展15回、夏の作品展10回、古
希、喜寿、傘寿、米寿作品展と言
うように、実に精力的に作品展を
開催してこられ、画集「草木譜」、
画文集「花の譜」も出版されまし
た。先生の画風は、細部にいたる
まで理系の学者の正確な觀察に基
づき、清楚で物静かな中にも凛と
して、見る人の視線に触れるもの
でした。画伯蒼花としてのご活躍
は、誠に華麗なご転身でした。
「私の人生は七十歳代が最も楽し
かった」と仰せのとおり、豊かで
充実したお姿でした。先生は、趣
味として退官後も続けるためには
遅くとも五十歳前には本格的に勉
強しておかないといけないよ、と

仰つて下さいましたが、私にはと
うとう果たせないままになつてし
まいました。

昨春秋に東京で米寿を記念して
個展を開かれたときには大変お元
氣でしたが、その直後の京都での
個展の際にはお疲れで会場にてお
目に掛かれませんでしたのは大変
氣掛かりでした。その後体調を崩
され、おやすみになつておられる
とのお手紙を奥様、通子先生から
頂戴致し、大層案じておりました
が、春に向かいリハビリ運動を始
められたとのお知らせに安心して
おりました。そして、4月16日か
らの第15回春の作品展のご案内を
頂き、再びお元氣な先生のお姿を
拝見できるものと楽しみにしてい
た矢先の訃報でした。亡くなる前
日までは食事も普段と変わらず召
し上がった由でした。当日は朝か
ら氣分が悪いと言われておやすみ
でしたが、昼頃から容態が急変し、
ご家族の必死の介護の甲斐なく午
後7時過ぎにお亡くなられたと言
うことでした。お知らせを頂いた
ときには、申し上げる言葉がでて
参りませんでした。

先生はご家庭におかれまして
は、よき夫であり、二人のご立派
なご子息のよき父親であり、お孫
さんにも恵まれたよき祖父であら
れました。このお幸せなご家庭に
とつて、先生を失われたことは、
いかに深い悲しみであるろうかと
拝察致しますとき、胸が痛み、

お慰めする言葉を知りません。
ともに見むと
ねがひし櫻も 見得ずして
花吹雪く日に 夫世を去りぬ
通子

先生のご業績とご高名は永遠に
私共の胸中に生き続けます。
どうぞ安らかにおやすみ下さい。

洛友会京都大学電気 百周年記念事業決算報告

本事業は昨年度の会報7月号で
もご報告しましたように、母校京
都大学電気関係教室の研究活動を
産業界にお知らせする情報誌「Cue

を發行して、産・学連携活動の活
性化に貢献するという目的の事業
を続けております。平成13年度
は、「Cue」7号と8号が發行されま
した。この情報誌は百周年記念事
業にご協力頂いた洛友会会員の皆
様にもお送りしておりますので、
電気関係教室関連研究室（洛友会
員の出身母体）の活動状況を皆様
にお知らせするメディアともなつ
ております。一方賛助会員も13年
度は、鉄道情報システム(株)、関西
変成器工業(株)、島田理化学工業(株)、
ダイキン工業(株)、日本アイ・ビ
ィ・エム(株)、フジテック(株)、(株)村
田製作所の7社からご協賛頂き大
変感謝しております。引き続きの
ご支援をお願い致します。また洛

友会会員の方々と、ご所属の企業
があらたに賛助会員としてご協力
いただける場合には、本記念事業
事務局
(Tel: 075-752-5777,
Email: ionfon@osk43web.ne.jp)
または洛友会本部事務局
(Tel: 075-701-3210,
Email: e-rakuyun@seaplala.or.jp)
にご連絡頂けますたら入会申込書
をお送りいたします。以下に収支
決算のご報告を致します。なお決
算の監査は5月24日、情報学研究
科の吉田 進教授にお願い致しま
した。

記念事業幹事代表
木村 磐根 (昭30年卒)

平成13年度収支計算書

平成13年4月1日～平成14年3月31日

収入の部 (単位:円)

賛助会費	800,000	企業7件
寄付金	5,000	
利息収入	14,646	定期利息
収入合計	819,646	
前期繰越収支差額	44,281,113	
収入合計	45,100,759	

支出の部 (単位:円)

事業費		
Cue刊行費	1,900,185	Cue No.7印刷送費938,093円 Cue No.8印刷送費962,092円
Cue編集費	100,000	浅野 望 Cue No.7, No.8
管理費		
事務委託費	1,200,000	平成13年4月～14年3月
通信費	57,515	電話・切手代
支出合計	3,257,700	
次期繰越収支差額	41,843,059	
支出合計	45,100,759	

財産目録 (単位:円)

現金	92,970
普通預金	
第一勧業銀行	383,183
三井住友銀行	506,604
定期預金	
第一勧業銀行	
企業寄付	35,800,000
運用資金	5,000,000
郵便貯金	60,302
資産合計	41,843,059

平成14年5月24日
上記収支計算書並びに財産目録を確認
しました。

署名人 吉田 進



会員寄稿

スポーツ遍歴

高橋 充夫 (昭23年卒)

大学在学中は、ちょうど戦後の食糧難でしたから空腹の毎日で、積極的にスポーツをするような元気がなく、たまに比叡山や愛宕山へ登るとかスキーに行く位のことしかしていませんでした。若い時に、スポーツ感覚を養っていないせいでしようか、いろいろやっても一向に上達せず、残念なことです。

1. ゴルフ

会社へ入って10年くらいたつと、スポーツと言うより交友の機会として必要になりました。そのうち、接遇の必需品ともなったのですが、似たような同僚との切磋

琢磨では、うまくなる筈もなく、一生90を切ることはありませんでした。もう今は、やめています。

2. ヨット

レースでなくてクルージングを20年ほどやりました。海と風を相手の体力的なものです。結構、準備・航測・夜間の警戒など知的要素の多いスポーツです。帆走は大変教訓的で、「キャプテンの独断が再々必要となる」、「追っ手の強風は転倒の危険をはらんでい

る」、「風向きが変わって後尾の船が先頭になってしまった」などなど、人生行路というか仕事でもとても参考になります。世界的にヨットマンが憧れる瀬戸内海の近くにいたことは幸いです。楽しい思い出ばかり多いのですが、これも終わりにしました。

3. スクーバダイビング

ヨットのスクリューに藻が巻きつくと、冬でも海に潜って取り除かねばなりません。そんなキツカケで60才過ぎてからスクーバを始め50本ほど潜りました。海中で浮いているだけで体力は要らず楽なのです。魚と一緒に泳ぐのもいいですが、珊瑚礁の美しさは世界に残された最後の楽園と言われている、本当に此処で埋もれてしまつて好いように感じます。水の透明度が高く、太陽が高い角度から差し込む南太平洋が最高で、辺鄙な離島にも日本人のスクーバ屋さんがいて助けてくれます。

4. テニス

家内が学生時代からテニスをやっていて、お互いに相手を自分のスポーツに引き込もうと争った結果、夫婦夫随で、テニスを本格的にはじめています。6年経ちましたので、クラブのCランクではパ

ートナーに迷惑かけず、まあよいところまで行けるようになりまし

た。テニスは格闘技です。相手のいやがる所へボールを送り、困らせねばなりません。パートナーとは声掛け合つてよい連携をとらねばなりません。ゴルフもテニスも4人ですが、テニスは終わつてから「恨みっこ無しよ」と握手します。ご婦人と握手する機会が多く嬉しいことです。

5. ガーデニング

第二次大戦中、土を耕し芋や豆

を作つた経験は素養として身につけていますので、定年後、庭の草花そして20本ほどの柿の果樹栽培をしています。ご希望でしたら本場の富有柿をお届けします。剪定や摘蕾などボランティア作業も歓迎します。

え? 「仕事もしたかい?」と、ご質問ですか。勿論々々その合間での話です。

「焼酎と健康」

石井日出男 (昭48年卒)

健康で長生きしたいと思うのは、人の世の常です。酒は「百薬の長」あるいは「酒は愁いをはらう玉簪」とも言います。適度な飲酒は健康によい。例えば、ネズミを使って、胃に潰瘍を生じ、出血を起こすようなストレスを負荷する実験において、アルコールや酒を与えておくとそれが抑制されるという。更に、精神的な効果に加えて、最近では、酒が血栓症を防ぐように働くこともわかつてきており、ボケ防止とも大いに関係があるという。すなわち、わが国のボケの原因の半分以上は、脳血管性の一種の血栓症であるからだそうです。また、飛行機の、エコノミー症候群とも大いに関係があるそうである。

特に、焼酎や泡盛が、この血栓症の予防になるといわれており、九州の酒飲みには、嬉しい話である。

酒には、米、麦、ブドウ等をアルコール発酵させてから作つた醸造酒と、さらに蒸留して作つた蒸留酒があることは、ご存じのとおりです。蒸留酒の代表的なものに、ウイスキー、ブランデー、ジンなどがあり、九州に住む者にとつて馴染みの焼酎、泡盛もその仲間なのです。

その焼酎にも、蒸留の過程によつて、甲類と乙類があります。蒸留を何度か繰り返して作るのが、甲類で、純粋なアルコールに近いほとんど無味無臭の酒である。これに対し、単式で蒸留したのが乙類で、芋、麦、米、そば、黒糖、更には、にんじん、ごまなど、多彩な原料の自然の風味が良く生かされていて、本格焼酎とも呼ばれている。また、乙類の中で、沖縄特産の焼酎を「泡盛」といいます。

アルコール分は、20〜30度が中心。お湯割り、水割り、オンザロックなどで楽しめる。6・4で薄ければ、7・3に、濃ければ5・5に、飲み手の好みや体調、雰囲気にあわせて自由に薄めて飲める。たとえ、1・9で作つても、風味が生きている。また、いろんなもので割つて、カクテルにしても良い。飲む人の好みに応じていろいろ楽しめる方が出来るお酒は、世界中探してもそう無いのではなからうか。

では焼酎が、なぜ、血栓症に良

電気系教室懇話会のお知らせ

恒例の電気系教室懇話会を下記のとおり開催します。万障お繰り合わせの上、ご出席を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 日時 平成14年10月18日(金)午後3時から
1. 講演会 電気総合館中講義室 (3:00p.m.~5:35p.m.)
3:00-3:10 電気電子工学科長挨拶 奥村 浩士
3:10-4:00 京都大学名誉教授、大阪電気通信大学 図書館長 同大学エレクトロニクス基礎研究所所長 佐々木 昭夫 「トランジスタの限界と量子効果半導体」
4:00-4:15 休憩
4:15-4:55 宇宙開発事業団 理事 古濱 洋治 「地球観測衛星と国際協力」
4:55-5:35 オムロン株式会社副社長 市原 達郎 「21世紀、日本の製造業の生き残りを賭けて一オムロンにおけるケーススタディー」
2. 懇親会 吉田 (旧教養部) 生協食堂2 F (6:00p.m.~7:30p.m.)

第二次大戦中、土を耕し芋や豆

いのか。

通常、血液の中には、血を固まらせる「凝固因子」と、血栓を溶かす「線溶因子」がバランスを保ちながら働いているが、年をとると、このバランスが崩れ、血栓ができ、心筋梗塞や脳梗塞の原因になる。また、脳内の微小血管の流れが次第に悪くなり、無自覚のうちその流域の脳細胞が弱って、脳血管性ボケになるとのことです。

適量の飲酒は、血管の内皮細胞にはつばをかけて、線溶系の酵素をたくさん作らせることが分つてきた。いずれの酒も、その程度に多少の違いは有るものの、摂取効果は有る。特に、本格焼酎や、泡盛のような乙類焼酎を飲んだ場合には、血液中の線溶活性は、他の酒より効果は大きく、飲まなかった場合の2倍以上に高まるとのこと。いろんな調査によれば、適量の酒は、血栓症に予防的に働くし、総じて、老化度が低いとのこと。

しかし、飲みすぎが良くないことは当然で、では、適量とはどのくらいでしょうか。本によると、純粋アルコール換算で、1日平均30ml未満、つまり、焼酎120ml、5・5のお湯割りでコップ1杯半、普通の人で、少し気分が良くなる程度の量とのことである。ちよっと物足りないか。

ところで、納豆にも非常に強い血栓溶解酵素が含まれることが分かっています、「ナットウキナ

ーゼ」と呼ばれる特殊な酵素で、納豆菌によって合成され、ネバリの中に作り出されるものです。さらに、納豆につきもののネギ類の中にも線溶活性を高める成分がある事もわかってきているとのこと。また、血栓予防には、青魚(イワシ、サバなど)、ナマコ、海藻なども良いそうです。

ブームになった赤ワインに含まれるポリフェノールは、血栓を予防する効果は高いが、できてしまった血栓を溶かす効果は焼酎には及びません。

九州には、たくさん焼酎があります。焼酎を楽しみ、ボケ防止、血栓防止に役立つとは、一石二鳥ではないでしょうか。

健康と長生きのため、納豆をはじめ血栓予防に働く食品を肴に、適量の焼酎の晩酌はいかがでしょうか。

同窓会だより

昭十会 70周年記念大会

昭和10年卒業の私共(昭十会)は本年大学入学70周年を迎えましたので、去る5月15・16の両日京都に於いて非常に盛大な懇親会を行いました。私共同期の者は現在生存者が11名となりましたが、同期卒業生49名の二割強で、その生存率が高く非常に幸福感がありま



す。昭和の初期に学習を共にした同志と70年間も親しい交誼を交えて参った今日、再会を重ねることが何よりと考え、昨年10月に続き

折しも京都の葵祭りもあり、一泊の後翌日は有名な保津峡下りに、数十年前参加して大いに京都の環境を満喫して、更に次回の会合を期待して一同解散致しました。

因みに今回の参加者は次の通りです。(敬称略)

- 大曲、神谷、小寺同夫人、清水、田村、高田同夫人、中堀同夫人、和田、以上13名

和田壽太郎(昭10年卒)記

昭和24年卒クラス会報告

6月17日、熱海岡本ホテルに集合、今回は芦原先輩が百一才で、目が離せないということで、森井

夫人が欠席。林が腰痛で、吉田が奥さんの足の不具合で、19名になった。岡本ホテルは古い安宿のようであるが、風呂は深くて気持ち良かった。生駒さんは骨折は大体直ったようだが、会合が集中して無理だということで今回は欠席だった。小原さん、松山が体調不良という話であった。大分足の弱っている人が多く、挨拶のために立ち上がるのに手間のかかる人が多かった。

18日の箱根はかなりの雨に祟られ富士山などは全く縁がないし、景色は殆ど見られなかった。

熱海峠、十国峠、箱根関所跡、成川美術館、箱根神社、芦ノ湖、大湧谷、仙石原経由、箱根ガラスの森等を見、古い香水瓶が三百点もあったが、小さくて見映えがし



なかった。中身が高価な物ゆえに容器も高価なかもしれないがもう一つピンとこなかった。少し時代の感覚が違ってきているのではないかと思う。予定より30分位早く小田原に着いてしまった。駅でお茶を飲んで待っている間に、テレビでワールドカップを見ていたら最初に一点取られてこれが「日本敗退」の全てであった。これ以上どちらも得点は無かった。

翌日は遠くから富士山の見えるような上天気だった。

第2回「41関東洛友ゴルフ会」

昨年5月、関東在住の有志(昭41年卒)が集まって第1回のゴルフ会が開催されました。今後も継続しようとの意見がまとまり、日程も決っていましたが、当日は全く予期せぬ台風に見舞われ、延期を余儀なくされてしまいました。その後何度か日程調整を重ねた末、ついに4月6日に御殿場の富士CCで開催にこぎつけました。

今回は、全員の折りが通じたのか、前日は強風であったにもかかわらず、写真のように快晴に恵まれ、絶好のゴルフ日和、スコアはともかく日頃の憂さを吹き飛ばす楽しいゴルフとなりました。(ちなみに翌日は雨でした。)試合後のアルコール抜きのパーティ(車での参加者が多かったため)も近



況報告や、情報交換で盛り上がり、アツという間にクラブハウスの終了時間となってしまいました。今回の参加者10名(千本、河合、武市、福井、松本、安井、望月、江上、菊井、久米)で、優勝は前回に引き続き千本君、準優勝は河合君でした。次回幹事は、準優勝の河合君とBの菊井君に決まり、千本君の3連覇打倒をめざして練習に励むことを約して、和氣藹々のうちに散会となりました。次回は8月の予定です。腕に関係なく楽しい会です。今まで参加されなかった人も次回は是非参加ください。

なお、今までに案内がいついていない方で興味のある方は、幹事の河合 (kawai@cripi.denken.or.jp) または菊井 (r.kikui@pep.ne.jp) まで連絡をお願いします。

久米一郎(昭41年卒) 記

支部だより

北海道支部報告

去る5月11日(土)札幌市駅前の札幌センチュリーロイヤルホテルにて、北海道支部総会を開催しました。まず、池内支部長より挨拶をいただきましたが、支部長をどなたかにお譲りしたいとのことから、役員改選について話し合い芝山龍



一氏(昭28年卒)に全員の拍手により新支部長を引き受けていただきました。

また、幹事より支部の予算算とともに本部からの支部交付金について報告いたしました。

引き続き懇親会となりましたが、今回の出席者は8名であり、例年どおり少人数ではありますが、和やかに進み、皆さんの趣味の話題などで楽しく時間が過ぎました。特に先輩の中には多様な趣味を持

たれた上に、新しい事にもチャレンジされている方も多く、感心させられるばかりです。皆さんの趣味について詳しくお話を伺えるのも、小規模な支部ならではのようです。

例年のことながら、あつという間に予定の時間は過ぎ、最後は西村正巳氏(昭12年卒)の乾杯で、来年の再会を楽しみに、会を締めくくりました。

北海道支部では新会員も少ないのですが、今後1人でも多くの参加を期待しております。

木元伸一(平元年卒) 記

九州支部総会報告

平成14年5月17日(金)、福岡市博多駅前のホテルステーションプラザにて、平成14年度九州支部総会を開催いたしました。本部から木村警根先生をお迎えし、九州支部からは主に福岡在住の会員23名が出席しました。

総会は、岡支部長の挨拶で始まり、出席率が高く喜ばしい半面、若年層の参加が最近少ない点を指摘されました。今後、若年層を含めたより一層の活性化が必要であると述べられました。

引き続き、木村先生からご挨拶をいただき、会費納入状況や本部の活動状況、電子メール開設、桂キャンパスへの移転に関する動向などのお話を伺いました。

その後、徳永幹事から平成13年



中国支部総会報告

平成14年5月28日(火)広島全日空ホテルにおいて、第49回目となる平成14年度洛友会中国支部総会が開催されました。総会には本部から近藤先生、教室から牟田先生をお迎えし、中国地方各地から35名の会員の参加を得て盛大に開催されました。

総会は司会の上田幹事の開会宣言で開会されました。池内支部長より挨拶をいただき、引き続き支部事務局から支部会員異動状況、支部活動状況を報告、会計決算、予算案について説明を行い、出席者全員の了承を得て各案が承認されました。

度活動実績・会計の報告及び平成14年度活動計画案の説明を行い、満場一致で承認されました。

懇親会は、安田大先輩(昭12年卒)の乾杯の音頭で始まりました。参加者全員、酒を酌み交わしながら、終始和やかな雰囲気、昔話や近況報告などに花を咲かせました。

また、若年層に多く参加してもらうための企画として、ゴルフ、麻雀、旅行会などの意見が出されました。ゴルフについては、年齢によるハンデをつけて年代別対抗戦をしてはといったアイデアも出ました。

最後に、本総会出席者の最年少、池田さん(平7年卒)の挨拶と乾杯で、懇親会の終了となりました。

今回、残念ながら参加していただけなかった会員(特にまだ参加されたことのない若年層)の皆様、来年度はぜひ参加していただけることを期待しております。

川内野寿博(平4年卒) 記



続いて近藤先生より洛友会本部の近況について、牟田先生より大学の近況について、それぞれお話しいただき、当初の議事を全て順調に終了し、上田幹事の閉会宣言で支部総会を終了しました。

写場での記念撮影の後、全日空ホテル最上階の懇親会会場にて支部恒例の懇親会の始まりとなりました。ホテル最上階から広島の夜景を眺めながら、支部会員の思い出話、近況報告等々、終始和やかな談笑の中で会が進行し大いに懇親を深めた後、最後には近藤先生の挨拶と乾杯の音頭で支部懇親会の閉会となりました。

四国支部総会報告

松本 鋭 (平4年卒) 記

5月31日(金)、高松市内のホテル「全日空ホテルクレメント徳島」において第47回洛友会四国支部総会が開催されました。

本部から近藤文治会長、教室から北野教授のご出席を頂き、四国内からは28名の会員が集まりました。

総会は近藤四国支部長(昭28年卒)の挨拶で始まり、例年総会を料亭で行っていたが、今回はホテルで開催し、雰囲気を変えてみた。来年以降の支部総会のあり方についても、活力を維持するために、時代に合わせて変更してみたいので、改善意見を出してもらいたい旨のお話がありました。

次に近藤会長よりご挨拶を頂きました。今まさに大学の構造改革が始まっており、洛友会も様々な改革が必要となろうとしている。支部のみならず本部の応援をしてほしい旨のお話をいただきました。

北野先生からは大学の現状や最近の学生気質などについてご紹介いただきました。特に最近の建替工事の様子や桂キャンパスの建設予想図などは写真をご持参いただき、非常にわかりやすく説明していただきました。

会務報告につきましては、満場一致で承認されました。

総会終了の後、懇親会に移り、船越先輩(昭22年卒)の乾杯音頭に始まり、先生方や久しぶりの友人と酒を酌み交わしながらの歓談や、先輩方が教室におられた頃の話等を伺うなどしているうち、楽しいひとときはあつと言う間に過ぎてゆきました。最後に恒例となりました「逍遙歌」と「琵琶湖周航の歌」の合唱で懇親会を締めくくりました。

その後、近藤先生を始め有志一同は同ホテル21階のラウンジにて、高松の夜景を眺めながら深夜まで親交を深めました。



翌日、北野先生は川原(昭50年卒)と東野(平4年卒)の案内で、栗林公園、金刀比羅宮、瀬戸大橋記念公園を観光されました。金刀比羅宮では息一つ切らせず千三百段の階段を登り、奥の院まで参られました。後日お話を聞きましたところかなり靴がすり減った様子でした。

お腹をすかせたところでご賞味いただいた名物の讃岐うどんと共に、ご記憶いただければ四国支部としても幸いです。

東野克俊 (平4年卒) 記

関西支部総会報告

平成14年度の関西支部総会は、本部総会と合わせて、6月8日(土)、大阪のリーガロイヤルN.C.Bにて開催され、昭和16年卒の大先輩から平成9年卒の若年会員まで58名の参加をいただきました。

今年新しい試みとして、支部総会に先立ち、講演会を開催しました。昭和55年卒の乾さん(関西電力)から「電力自由化の現状について」と題して、諸外国における電力自由化の動向、カリフォルニアの電力危機および日本の現状等ご説明をいただき、ご出席の皆様からも色々質問が出るなど、有意義な講演会となりました。

総会では、伊藤支部長より「家族見学会等同窓会の活動が、厳し

い仕事の中で、気持ちの安らぎが得られるような場になれば喜ばしい」との挨拶があった後、議事として、平成13年度事業及び決算報告、平成14年度事業計画と予算編成、支部役員改選について審議され、満場一致で承認されました。

平成14年度の新役員は

支部長 皆川 長也 (昭35年卒)
副支部長 細田純一郎 (昭31年卒)
総務幹事 大津谷正和 (昭48年卒)
会計幹事 福田 隆 (昭57年卒)

の各氏です。なお、今年の関西支部の家族見学会は10月20日(日)に「備前焼体験とチボリ公園」の予定です。

続いて、皆川新支部長からの新役員の紹介と「中堅、若手にもっと参加してもらえような活動をしていきたい。家族見学会では焼き物に挑戦したい。」とのご挨拶をいただき、支部総会は閉会となりました。

支部総会の後、本部総会が開催され、近藤会長から「大学も同窓会も激動の時代を迎えている」と挨拶や、奥村先生から、電気系教室の現況報告として、桂キャンパス移転の現状などのご報告をいただきました。

支部・本部総会終了後懇親会が開催され、まず、近藤会長から「自分の本当の姿を飾らずに出せるところが同窓会の良いところである。」とのご挨拶をいただきました。次に大嶋副会長から、先頃



お亡くなりになられた、上西亮二様および清野武先生の思い出話として、「優れた方は専門技術だけではなく、漢文や絵などの文化的にも素晴らしい才能をお持ちであった」とのお話とともに、上西様の書かれた「素直な心が人を育てる」という文章、清野先生の描かれた日本画の絵はがきを配っていただきました。さらに、明治34年の報知新聞の記事である「二十世紀の預言」を配布していただき、この二十一世紀にはどのような技術が生まれるかに、参加者一同思いを馳せておられました。その後伊藤前支部長のご発声により乾杯が執り行われ、グラス片手に旧交を温めあいました。途中、皆川支部長および本部総会にご出席いただいたおりました中部支部の大野支部長にご挨拶をいただくなど、和気あいあいとご歓談いただくなか、予定の1時間30分はアツとい

う間に過ぎていきました。最後に

関西支部では恒例となつて「洛友会の歌」を全員で斉唱し、細田副支部長のご挨拶の後、来年の再会を誓つての散会となりました。

美濃 由明(昭56年卒) 記

第77回関西支部

ゴルフ競技会報告

第77回関西支部ゴルフ競技会が平成14年5月26(日)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

当日は晴天に恵まれ、昭和21年卒の藤本一夫氏を筆頭に、合計25名(うちシニアの部7名)が競技に汗を流しました。

結果は次の通りです。

(シニアの部)

優勝 松室 憲尚(S33年卒)

2位 福川 幸勇(S30年卒)

3位 伊藤 俊一(S34年卒)

(一般の部)

優勝 松岡 茂朗(S27年卒)

2位 森田 宏(S34年卒)

3位 大澤 靖治(S44年卒)

《第78回競技会のご案内》

平成14年10月27日(日)

於 武庫ノ台ゴルフコース

多数のご参加をお待ちしております。

《連絡先》

関西電力株

八木 誠(S47年卒)

土居 聡(H8年卒)

06・7501・0355

土居 聡 記

東京支部総会

講演会・懇親会

平成14年6月16日(日)に例年通り目黒の八芳園にて東京支部総会を開催しました。昭和9年卒業の大先輩から平成元年卒まで73名の会員の参加があり、本部からは近藤文治会長、池上文夫副会長を来賓としてお迎えしました。

支部総会は午後2時に角支部長による挨拶で始まり、近藤会長からは、洛友会本部もIT化で「E化」が使えるようになったこと、今後はホームページの設置を検討しているとの報告がありました。また小倉総務幹事から平成13年度の行事、予算・決算などの説明、前川臨時監事から会計監査結果の報告があり、決算内容について拍手をもって承認されました。

次に、角支部長から支部会則案の説明があり、案通りの制定が、拍手をもって承認されました。引き続き続いて小倉総務幹事から次期役員候補の紹介が行われ承認されました。平成14年度の新役員は支部長 和田昌美、副支部長 藤江恂治、総務幹事 柴沼敏郎、会計幹事 沢辺 学、監事 前川則夫の5名です。

角支部長は退任に際して、支部会則案作り以前支部長時代から2年に亘って十分な議論を重ね、様々なご意見を頂いた結果、良い会則が出来たことに感謝を述べら



れました。

その後、役員交替し和田新支部長より、定着しつつある東京支部のホームページの魅力アップなどIT路線を一層推進するとともに、支部活動を支えている幅広い年齢層の会員全体に報いるような運営を目指したいとの挨拶がありました。あわせて、年々繁忙さを増している幹事業務の負荷分散について、会員の理解と協力の依頼がありました。

引き続き柴沼新総務幹事より、平成14年度の行事、予算計画が説明され承認されました。その後平成13年度に米寿・喜寿を迎えられた方々(米寿4名、喜寿11名)のお祝いを行い、出席されていた米寿の平野様(昭13年卒)、筑木様(昭14年卒)、喜寿の服部様(昭23年卒)、門脇様(昭24年卒)、北野様(昭24年卒)に代表として、それぞれ米寿、喜寿のお祝いの目

録が手渡されました。

同日、同会場で、午後3時半より洛友会の会員でもある、京都大学電子物性工学専攻教授松重和美先生、ならびにアジレント・テクノロジーズ株式会社代表取締役社長成松 洋氏をお招きし、「産学連携を考える」というテーマで講演を開催し、70余名の参加を得ました。開会に際し、角前支部長より、講師の略歴の紹介、本講演会参加への感謝が述べられました。続いて松重先生、成松社長より約1時間半に亘り力のこもった講演が行われました。

松重先生からは、米国が1990~2000年に伸びたのは産学連携があったからであり、日本でも小泉内閣で産学連携が大きく取り上げられている。この失われた10年を取り戻すためには、獨創性、迅速性、実効性に富んだ産学連携活動が必要と力説され、京都大学での産学連携の活動として「ベンチャー・ビジネス・ラボラトリ」、「国際融合創造センター」、「桂イノベーションセンター」、「知的クラスター」について活動の詳細が述べられました。成松社長からは、1980年代以降世界を牽引してきた日本が2000年以降リーダシップをとれない現状から、今後産官学融合してリーダシップを発揮できるようにしていかなければならない。特に人材の育成が重要であり、大学、

企業がそれぞれの立場から人材を育成し、官も交えて相互シナジー効果を出しながら日本の国際競争力を高めていくべきとのこと、自身が外資系企業の日本法人トップとして米国本社と接している体験や実感も交えて述べられました。最後に両講師への質疑応答のありました。会長からは、洛友会報に京大はどういう方向に向かっていくかを載せていって欲しい、京大の改革の方向が日本全体の将来をも左右しかねない、との趣旨のお言葉をいただきました。

午後5時半より恒例の懇親会に移りました。藤江新副支部長の挨拶の後、池上副会長の乾杯ご発声が始まり、久しぶりに再会した会員の方々の談笑が広がるなか、米寿、喜寿を迎えられた方々を代表して米寿の平野様、筑木様、喜寿の服部様に記念のスピーチを頂きました。また、趣味の会の洛語会の皆様から余興をご披露いただくなど、和やかなひとときを過ごしました。最後は沢辺新会計幹事の中締めと「琵琶湖周航の歌」の全員での大合唱で盛り上がったところで、午後7時半頃に散会致しました。

なお、来年度も5月25日(日)に八芳園で開催の予定です。

沢辺 学(昭57年卒) 記

表(2) 平成14年度収支予算

(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 平成14年度決算額, 備考. Rows include 会費, 預金利子, 広告掲載料, etc.

表(1) 平成13年度収支決算報告書

(平成13年4月1日～平成14年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 備考. Rows include 会費, 預金利子, 広告掲載料, etc.

2. 支出の部 (単位 円)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 平成14年度決算額, 備考. Rows include 名簿編集費, 電算機処理費, 印刷費, etc.

2. 支出の部 (単位 円)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 備考. Rows include 名簿編集費, 電算機処理費, 印刷費, etc.

平成14年4月23日、応用科学研究所において、領収書、帳簿等関係書類を慎重に監査し、支出及び決算が適正であると認めました。

幹事 吉田 進

本部だより

本部総会報告

平成14年度本部総会は6月8日(土)、大阪中之島のリーガロイヤルNCBホテルにて開催された。

説明と審議に入りました。先ず事務局より平成13年度事業報告と収支決算報告の説明が行われた後、出席者全員で承認されました。

額はほぼ予算どおり) 続いて平成14年度の事業計画案と予算案の説明の後、全会一致で承認されました。

次いで、役員の一部変更(別項報告)、木村幹事から百周年記念事業実行委員会報告(別項報告)

副会長に

松波弘之教授が就任

6月8日(土)開催された本部総会で、本年3月末日で退官された宅間 董副会長に代わり、教室最年長教授の松波弘之教授が副会長に選出され、就任されました。

事務局だより

お知らせ

会員皆様の強いご希望により、今般本部事務局に専用電話とEメール設備が整いました。

電話番号 075-70113210 FAX番号 075-7011217 メールアドレス e-rakuyukai@sea.plala.or.jp

編集後記

梅雨明けが近づき連日の真夏日、今年の関西地方は雨量少なく、一部で給水制限が行われています。

計報

Table with 2 columns: 昭, 恒. Rows include 昭8, 昭13, 昭14, etc.

以上の方々のご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。